

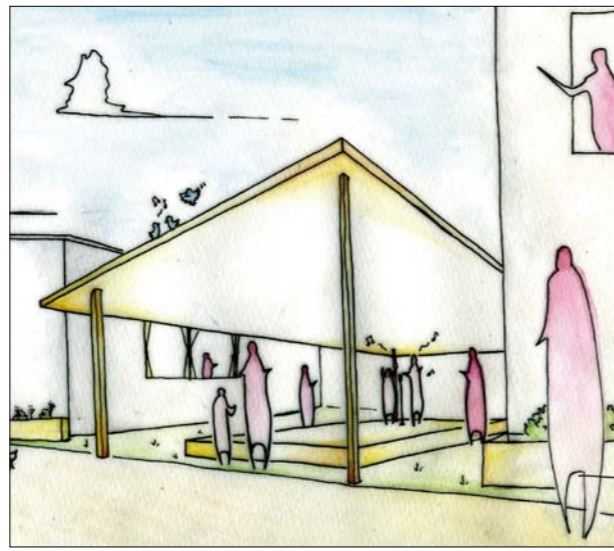
コミュ箱

～コミュニティを生む
新たなエレベーター～

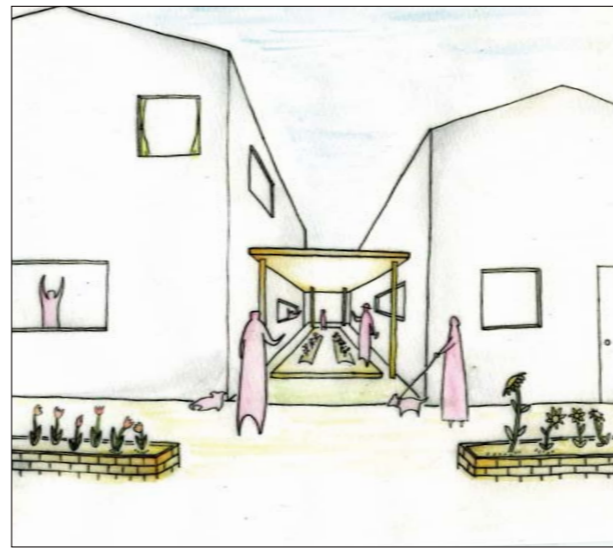
つながり。

先の震災は私たちにコミュニティの重要性を教えてくれた。
今ある家族や親戚、友人、そしてこれからの新たな出会い。
震災でリアルなつながりを求め始めた今、その一歩先を見据えたコミュニティのあり方が問われている。

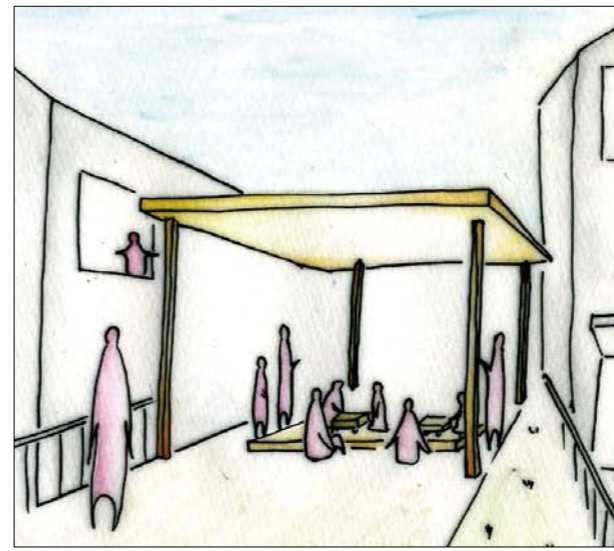
このエレベーターはそんな未来のつながりを生み出すエレベーター。



町ののど自慢大会。活気に誘われて人々が集まります。



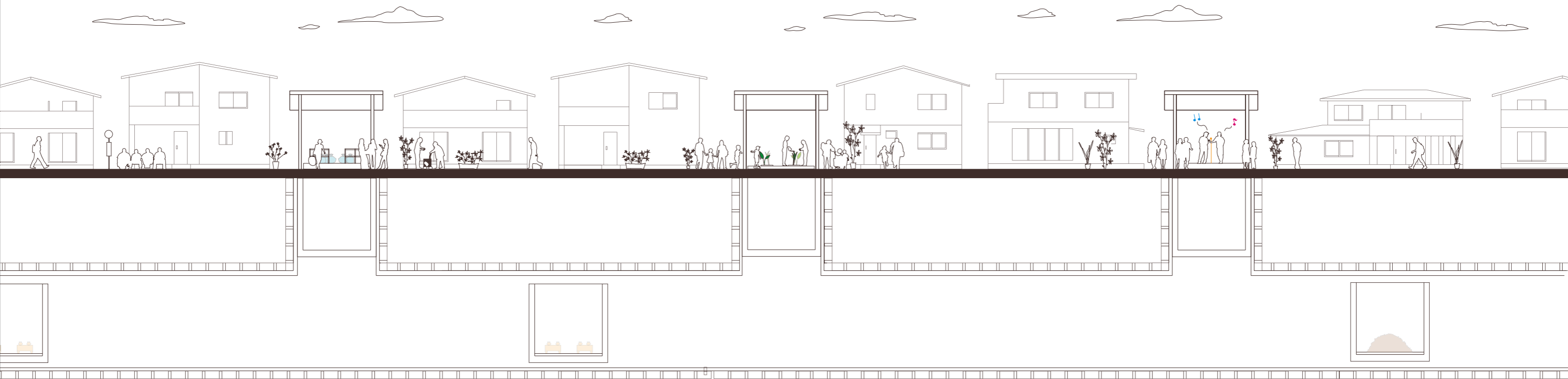
みんなで育てる野菜農園。月に一度の収穫祭。



午後のひと時。囲碁でひと勝負。

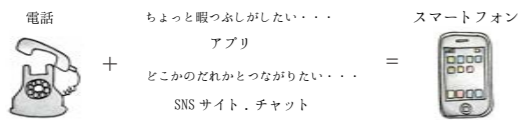


みんなで作るエコな町。生ゴミのたい肥化で町を活性化。



スマートであるという事

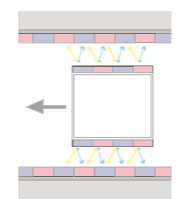
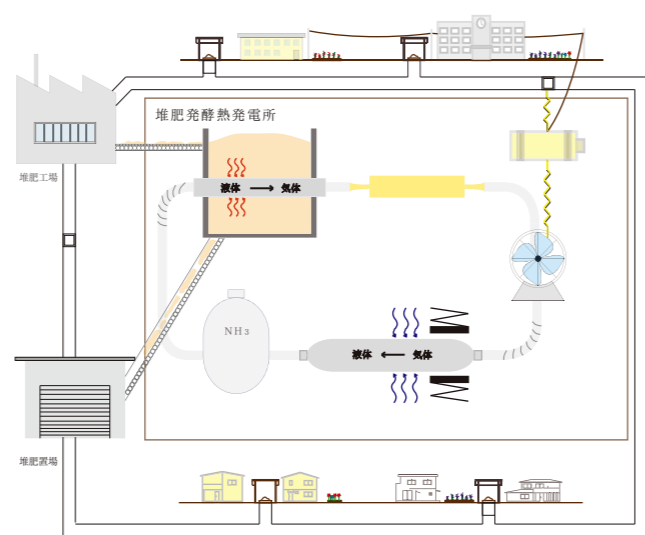
～進化から新しいものへ～



私たちの考えるスマートとは
まったく別の目的を持って作られたものを取り入れ、
かつもともとの機能を失わずに別の新しいものへと変化すること。
未来のスマートエレベーター
エレベーター+「コミュニティ」を生み出すもの
=スマートエレベーター
「コミュニティ」は人々を繋ぐ場所となった。そして未来のエレベーターは「コミュニティ」を繋ぐ。エレベーターに運ぶという機能に「コミュニティ」を加えることで「つながるコミュニティ」という新しいものになる。

エコを考えたエネルギー循環

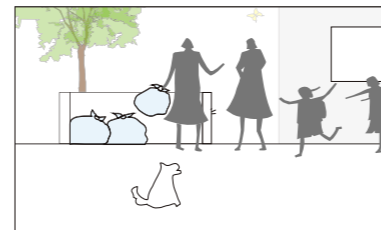
～リニアモーターと堆肥熱発電の利用～



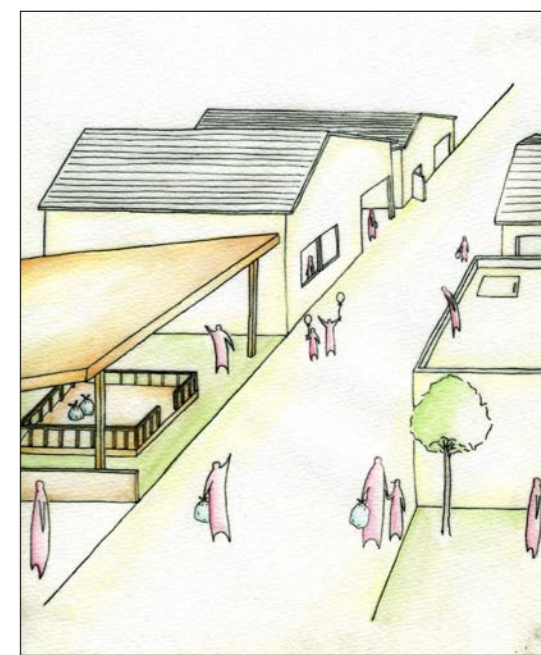
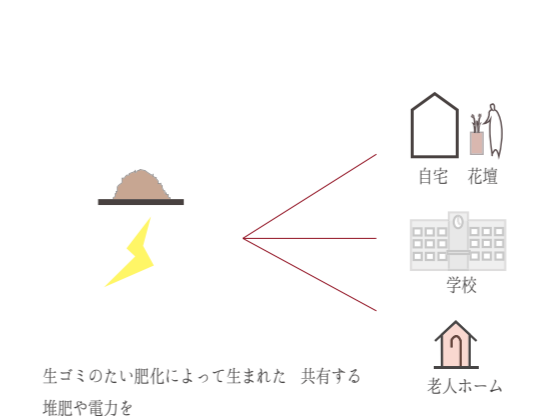
リニアモーターと生ごみ利用による堆肥熱発電で動く未来のエレベーター。

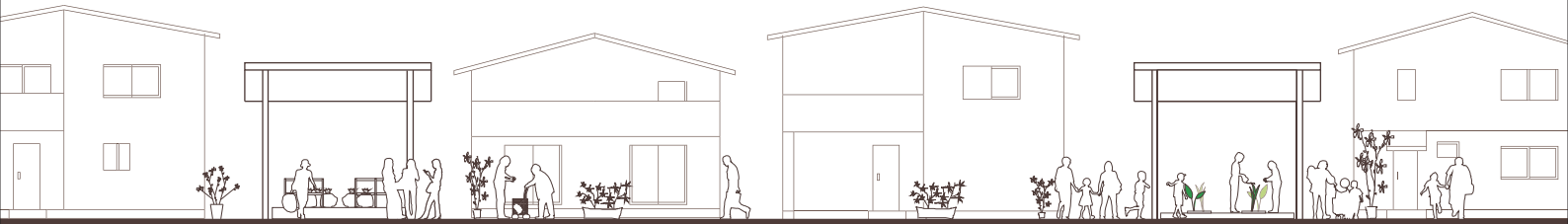
ゴミ置き場の利用 ～あいさつから生まれる小さなコミュニティ～

ゴミ捨て場。そこは普段はあまり日に当たる事がなく、あまり気に止まらないような場所。
しかしゴミを捨てに行く事、そこで交わされる「おはよう」の一言。
朝の何気ない風景にある小さなつながり。
私たちはここに新たなコミュニティ形成の可能性を見出した。



「捨てる」から「生まれる」への転換。
主に生ごみ利用によって堆肥化および堆肥熱発電をする。作られた堆肥は地元住民が共有する。また、小学校、老人ホームなどにも分けられる。



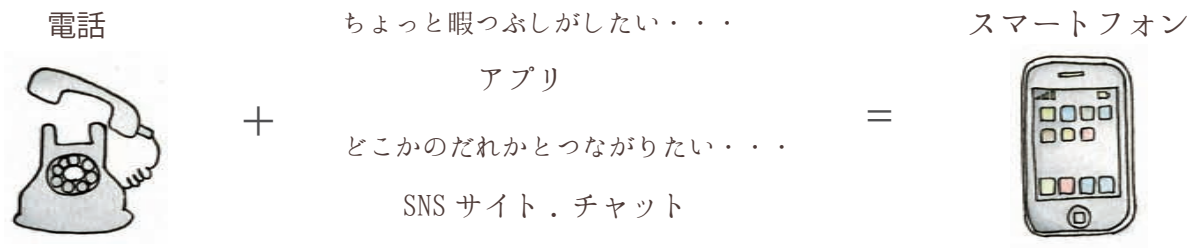


1. スマートとは ~進化から新しいものへ~

スマートフォンというものがある。

これは通話という機能をもった携帯電話に、

別の目的を持って作られた様々な機能を追加していくことで別の次元のスマートフォンというものになった。



私たちの考えるスマートとは

まったく別の目的を持って作られたものを取り入れ、かつもともとの機能を失わずに別の新しいものへと変化すること。

2. 背景 ~震災から今~

3.11の震災は人々に「コミュニティ」の重要性を教えてくれた。

朝のあいさつ・・・

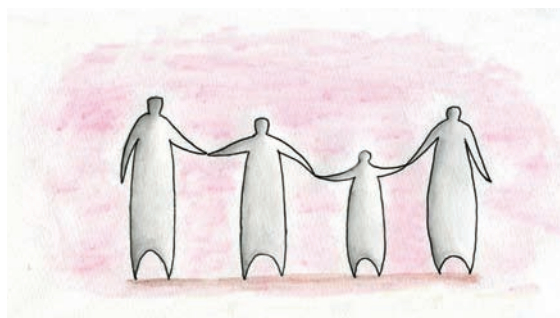
近所の公園・・・

喫煙スペース・・・

日常の少しのつながりの重要性を。

そして実質的なつながりを求め、

社会は「コミュニティ」を形成しはじめている。



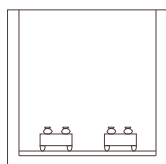
3. 提案 ~未来のスマートエレベーター~

エレベーター+「コミュニティ」を生み出すもの=スマートエレベーター

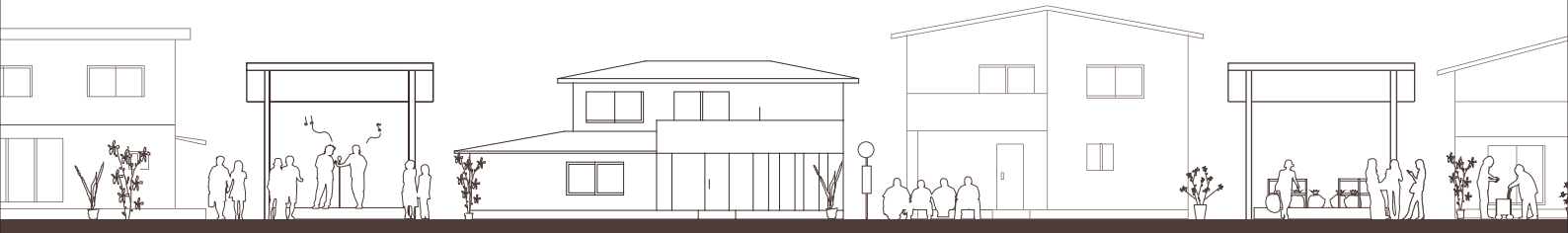
「コミュニティ」は人々をつなぐ場所となった。そして未来のスマートエレベーターは「コミュニティ」をつなぐ。エレベーターの元々持っている「運ぶ」という機能に「コミュニティ」を加えることで、「つながるコミュニティ」という新しいものへと変化する。

小さなコミュニティ同士がつながることでやがて大きなつながりを生み出す。

広域に、そしてリアルにつながりを認識し合える豊かで新しいコミュニティの形が生まれることを期待してこのスマートエレベーターを提案する。



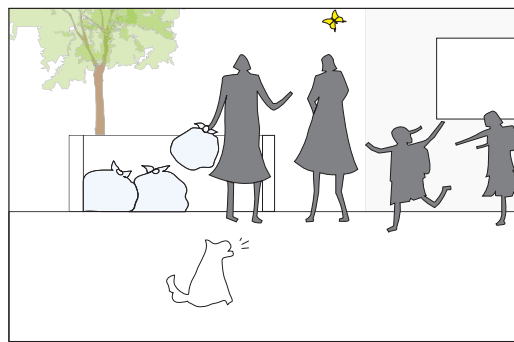
コミュ箱



4. ゴミ捨て場の可能性 ~捨てるから生まれるへ~

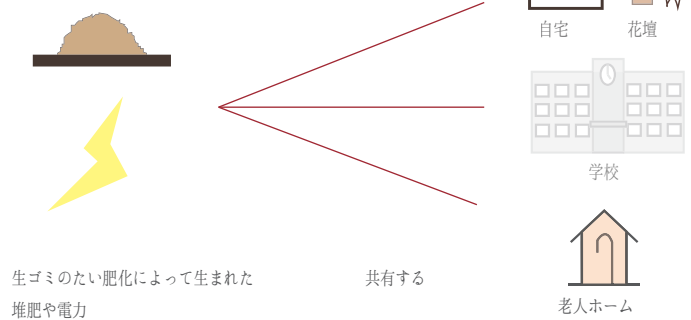
ゴミ捨て場。そこは普段はあまり日に当たる事がなく、あまり気に止まらないような場所。ただ「捨てる」だけの場所であった。

しかしゴミを捨ててに行く事、そこで交わされる「おはよう」の一言。朝の何気ない風景にある小さなつながり。私たちはここに新たなコミュニティ形成の可能性を見出した。



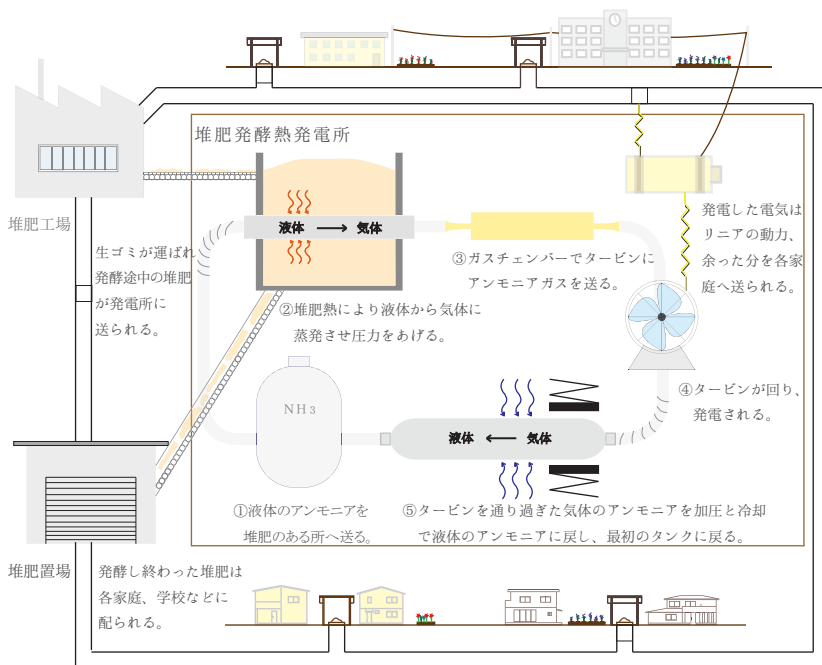
「捨てる」から「生まれる」への転換。

主に生ごみ利用によって堆肥化および堆肥熱発電をする。作られた堆肥は地元住民が共有する。また、小学校、老人ホームなどにも分けられる。

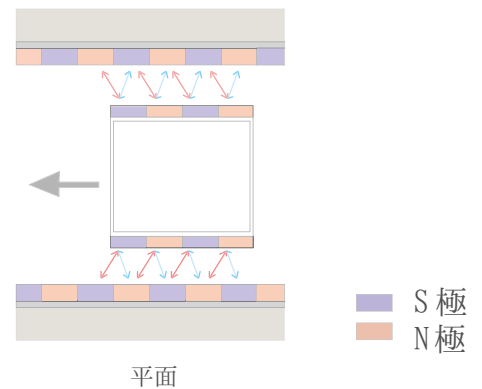


5. 堆肥熱発電の利用 ~循環するエネルギー~

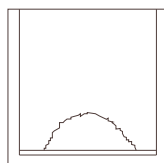
6. リニア ~省エネルギー動力~

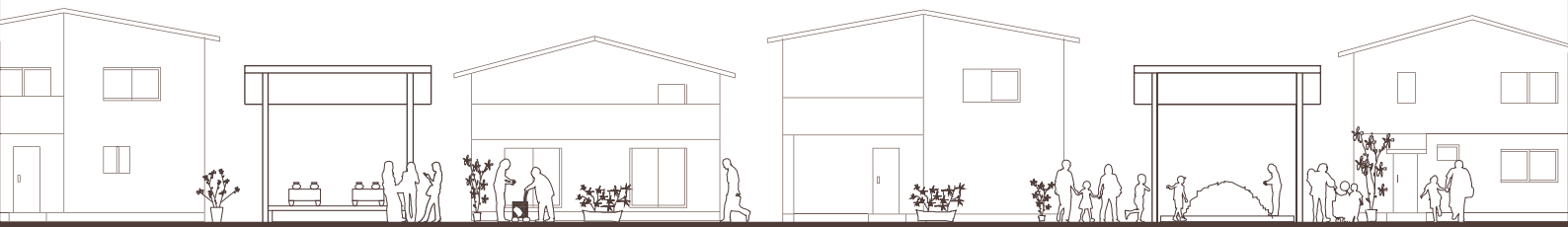


エレベーター自体の動力は、超電導リニア（超電導磁気浮上方式）を利用する。超電導リニアは、EVに搭載した超電導磁石と地上コイル間の磁力によって浮上させ、超高速で走行する。超電導状態となったコイルに電流を流すと、電気は永久に流れ続ける。



コミュ箱





7. 趣味の利用

■ 朝のゴミ捨てTime

朝はゴミ捨て場として利用される。

今までは、

ただゴミ捨ての「場」であった。

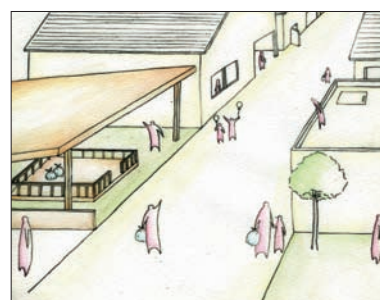
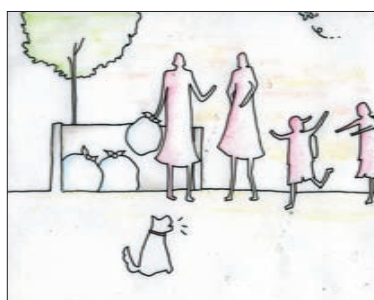
それを

「空間」に変える。

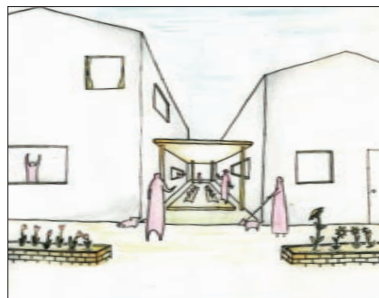
すると人は集まりだす。

なにげない会話が始まる。

そしてコミュニケーションが生まれる。



■ エコ堆肥



生ごみから出来た堆肥は、栄養分が多い。

堆肥発電として利用された土は、再利用される。

それを

「農園」、「家庭菜園」

といった様々なところで利用される。

「食べる→捨てる→育てる」

と循環が生まれる。

■ 囲碁教室、漫才大会

人々が公園感覚で、

気軽に集まる場。

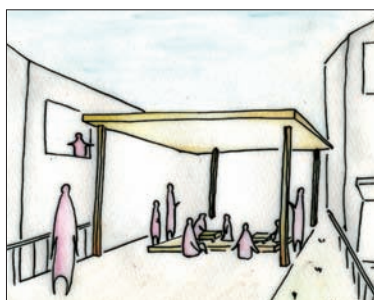
この空間は様々世代の人々が集まる。

漫才であれば、笑ったり、話すことで

元気や活気が生まれる。

囲碁であれば、大人から子供に教えることで、

世代を超えた交流ができる。



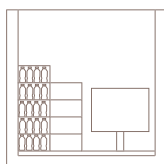
8. 災害時の利用

東日本大震災時には救援物資の供給であったり、物流が問題点であったと考える。

震災が発生し、日数が経過しても、避難所に救援物資が届かない、または、被災者が求める物資が届かないといった問題が発生した。

そこで、災害時には、このエレベーターで救援物資や地域ごとの情報を運ぶ。物資の配給場所と情報を得る場所が確定していれば効率のよい物資の配給、確実な情報の把握ができる。それらの場所が身近にあることで、人々の混乱を未然に防ぎ、迅速な救援活動を

可能にする。



コミュ箱